

### トゲアメフラシ

【見られた地点：①】

体長 15cm、水深 10m 前後の砂泥底に生息していることが多く、藍藻類を食べます。背面には黒い輪で囲まれたあざやかなターコイズブルーのまだら模様があります。また背面は樹枝状の長い突起と円錐形の短い突起に覆われています。刺激を与えると、紫色の汁を放出します。



### コウイカ科

【見られた地点：③・④】

体の背中側に浮力調整に使う石灰質の殻をもちます。殻は舟形または柳葉形で厚く、外套膜（いわゆる胴体・食用になる部分）はドーム形です。鰭（ひれ）は外套膜側縁の全長に及び、吸盤は例外を除き 4 列です。ほとんどの種は水深 400m くらいまでの陸棚周辺の底付近に生息しています。



### マダコ

【見られた地点：③】

一般的な食用種で、全長 60 cm 程度になります。体色や形態も変化する、周囲の環境に擬態します。敵から襲われると墨を吐いて逃走したり、隙間の奥に潜り込みます。潮下帯の岩礁や砂泥底に生息していますが、潮溜まりの岩の隙間にいることもあります。



### ムラサキガイ

【見られた地点：①・②・③・④】

北海道南部から九州の潮間帯から潮下帯に生息します。殻長 5cm。殻表は平滑でやや薄く、殻皮は黒紫色をしています。地中海原産の外来種です。



### ミドリイガイ

【見られた地点：①・②・③・④】

殻長 8cm、殻は薄く、鮮やかな緑色を帯びています。インド洋・西太平洋の熱帯海域が原産の外来種です。1980 年代以降、本州南部太平洋・瀬戸内海沿岸の各地の港湾に定着しました。潮間帯から潮下帯にすんでいます。



### マガキ

【見られた地点：①・②・③・④】

殻長 15 cm、左殻で岩に固着します。内湾性で、富栄養の海域によくみられます。潮間帯や潮下帯の岩礁に生息していて、夏に産卵します。北海道以南に生息していますが、サロマ湖など北方の個体は巨大になることが知られています。



### タイラギ

【見られた地点：②】

内湾の水深 5 ~ 10m くらいの泥底にすみ、殻頂が下につきささったように生活しています。貝柱は「平貝」として販売されています。殻形は殻頂のほうが狭くなった三角形で、大きくきわめて薄い殻を持ちます。殻長 15 cm、殻高 22 cm で、東京湾以南に分布します。

